

題 名 : Complex Segmentectomy for Hypermetabolic Clinical Stage IA Non-Small Cell Lung Cancer.

(FDG-PET 強陽性を呈する、臨床病期 IA 期肺癌に対する複雑区域切除の有用性の検討)

発表誌 : The Annals of Thoracic Surgery. 2022 Apr; 113(4): 1317-1324.

..... 《 論 文 内 容 要 旨 》

【背景】近年、区域切除は肺癌治療において、より多くの場面で選択されるようになってきている。しかし複数の区域面形成を要する「複雑区域切除」は、手技の煩雑さに加え不完全切除増加への懸念から、有用性に議論の余地を残している。特に、高悪性度である FDG-PET 強陽性肺癌における、複雑区域切除の成績は十分な検討がなされていない。そこで我々は、FDG-PET 強陽性、臨床病期 IA 期肺癌における、複雑区域切除の手術成績を検証した。

【対象と方法】国内多施設共同研究を実施し、2010年から2019年までを試験期間とした。その期間に複雑区域切除もしくは肺葉切除を施行された、FDG-PET 強陽性 (SUV max ≥ 2.5)、臨床病期 IA 期肺癌患者計717例を対象に、術後長期予後に関する比較検討を行った。

【結果】全コホートにおいて、複雑区域切除群は肺葉切除群に比べ5年癌特異的生存率 (5y-CSS) ならびに5年無再発生存率 (5y-RFI) において有意差を認めなかった (5y-CSS, 89.9% vs 91.1%, $P=0.98$, 5y-RFI, 83.0% vs 77.5%, $P=0.62$)。さらに、propensity score match されたコホートにおいても、両群で腫瘍学的成績に有意差を認めなかった (5y-CSS, 89.9% vs 83.6%, 5y-RFI, 83.0% vs 82.5%)。加えて、無再発生存に関する多変数解析において、両術式による腫瘍学的成績に有意差を認めないことを確認した (HR, 0.84; 95% CI, 0.25 to 2.14; $P=0.74$)。

【結論】FDG-PET 強陽性、臨床病期 IA 期肺癌において、複雑区域切除は現在の標準治療である肺葉切除に非劣的な長期予後を示した。複雑区域切除は肺癌治療において、十分な手術成績を伴った治療選択肢の一つと考えられた。